

【全体概要】

愛知県では、「巨峰」、「ピオーネ」等の着色品種で夏季の高温による着色不良が発生し大きな問題となっている。アブシシン酸(以下ABA)は、果房に散布することで果実の着色を向上させることが知られている。当該技術を産地に広く普及させるためには、地域の状況に合わせて適切な散布方法や時期を検討する必要があることから、本事業において検証する。その際、安価なマイコンと土壤水分、温湿度、重量センサーを活用してABA散布果実の収穫前管理の適切な条件についても検証する。

新品種・新技術等の概要

ABAの果房散布によるブドウの着色向上

ABAの散布濃度、時期及び方法について現地実証する。



散布あり 散布なし  
写真 収穫時の果皮色に及ぼすABA散布の影響

低コスト環境測定装置によるブドウ栽培の見える化

マイコンを使った安価で自作可能な測定装置により、土壤水分、ブドウ果実重量等を経時的に記録する事で、栽培環境がブドウの果実肥大等にどのように影響するかを明らかにする。

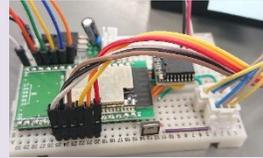


写真 マイコン測定装置

主な取組内容

- 県内4カ所の実証ほにおけるABA散布効果の実証 → ABA散布による着色向上効果、散布時期・散布方法の検討ができた。
- 低コスト環境測定装置による栽培の見える化 → 土壤水分・房重等のデータを取得できた。
- 実証ほの試験結果について検討会議を開催
- 産地・実需者との情報交換会の開催

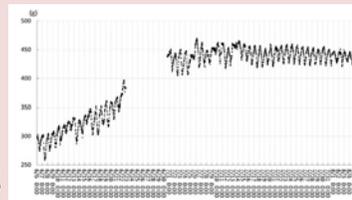
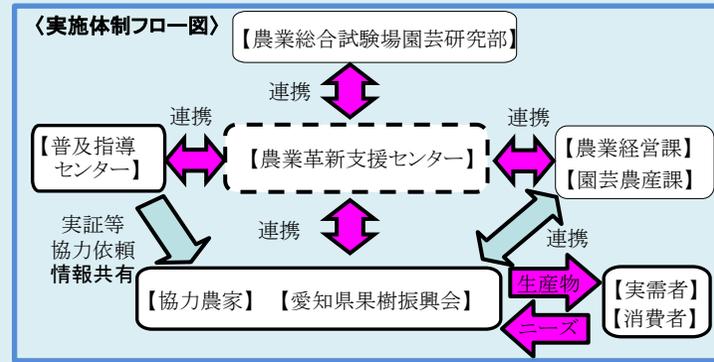


図 房重の変化

実施体制図



農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場と協力し、生産者・実需者・消費者との連携を図りながら事業の調整・進行管理を行う。

実績と今後の展開

- 実証ほにおける栽培試験を実施し、ABA散布による着色向上効果を把握した。また、散布時期、省力的な散布方法について検討できた。
- ABA液剤利用面積 0ha(R3) → 2ha(R5)
- 環境データの計測とそれを活用した栽培管理を推進する。
- 得られた知見からとりまとめた「ブドウの着色改善のためのアブシシン酸液剤の活用方法について(アブシシン酸液剤利用の手引き)」を活用して普及推進する。
- 着色向上をつうじて販売単価の向上を目指す。